



ハエの防除対策をしていますか



暖かくなり、ハエの発生しやすい時期となります。

ハエの発生は、苦情の原因になるばかりか、病原体の伝播やサシバエ類によるストレスが、生産性を低下させますので、的確にハエの防除を実施し、衛生的な畜舎環境を維持しましょう。



【ハエの防除対策】



- ① **環境対策**：ハエの発生源となる環境を作らないこと
新鮮な畜糞、堆肥舎に堆積された糞、給水器の下、こぼれた餌等は速やかに処理し、畜舎内外をこまめに清掃する。
特に堆肥化処理は適切な水分調整の上、発酵処理してください。
なお、堆肥への石灰窒素（1～2%）の定期的散布も有効です。
- ② **幼虫対策**：ハエは、ウジの段階で駆除するのが効果的です。ウジ専用の殺虫剤により、定期的（週に2～3回）に散布しましょう。
また、脱皮阻害剤（IGR剤）も効果的です。
- ③ **成虫対策**：通常は、誘引トラップ（ハエ取り紙、ハエ取りシート等）のような物理的な駆除や殺虫剤を使用します。
大発生した場合は、空中噴霧で数を減らし、残留噴霧法や毒餌法が効果的です。

【殺虫剤の種類】



種類	特徴
有機リン系	速効性、遅効性、残効性と広く利用。残留噴霧や毒餌に使用可能。
ピレスロイド系	除虫菊製剤。速効性がありハエの大量発生時の空間噴霧に多用。残効性もある。
カーバメイト系	速効性だが、毒性はやや強い。
脱皮阻害剤等（IGR）	ウジの成長（脱皮）を阻害する薬剤でふん堆積場や畜舎の床のふんに散布すると発生を防ぎます。

【殺虫剤使用時の注意点】



- 殺虫剤が効かなくなったハエに対しては、異なった種類の薬剤を使用する。
（有機リン系、カーバメイト系薬剤で抵抗性があるものにはピレスロイド系薬剤を使用）
- 用法・用量は添付の説明書をよく読んで、必ずそれに従う。
- 殺虫剤が畜体や生産物にかからないように使用してください。殺虫剤が畜体にかかると休薬期間が必要になることがある。



京都府丹後家畜保健衛生所 与謝郡与謝野町字下山田616
TEL：0772-43-1125 FAX：43-1124

